

第2回枚方市新庁舎整備基本構想意見聴取会における主な意見と市の回答

【6月11日 吉川委員・池内委員】

No	主な意見	市の回答
1	機能面では、網羅的なサービス向上によるコスト増加が懸念される。附帯機能は可能な限り民間に委ねるべき。	附帯機能のコスト抑制策として、民間のノウハウを活用して整備する考え。
2	庁舎のシンボル性は、デザインや高さ、規模に限らず利用者の精神性に拠るところもある。市の歴史や文化を発信する機能を備えることで愛着心にもつながる。	庁舎のシンボル性など特有機能は、景観や環境面からも枚方市特有の良さを感じられるとともに、市民が誇れる拠点の形成をめざし、市の歴史や文化など様々な情報が得られるよう情報発信コーナーを設ける考え。
3	庁舎として当然達成すべき機能と将来目指すべき機能の両輪で考えるべきで、将来に向けてのメッセージ性やターゲットを明確にするべき。	今後の社会環境が変化していく中で、基本方針に基づき将来にわたり効果的・効率的に行政サービスを提供していく拠点として整備する考え。その上で、交流機能や付帯機能など市民に広く利用していただく機能を整備する考え。
4	災害時には活動スペース、平常時には市民の交流イベントなど、多目的に活用できるスペースを設けることは非常に有効。	災害時の活用も見据え平常時は、市による啓発活動や情報発信など市民交流が図れるよう、1階に多目的スペースとしてまとまった空間を確保し、市民同士や市民と職員が気軽に談話できる市民交流スペースを設ける考え。
5	駅前窓口を充実する場合、本庁舎で扱う業務の整理は必要であるが、婚姻届や相談を伴う手間の掛かる手続きなどは本庁舎に来庁することが予想できる。	本庁舎、市内各支所及び駅前窓口の各機能について、本市の地形や状況、市民の利用ニーズに応じた役割分担を行うとともに、本庁舎での行政サービスの満足度を高められるよう市民窓口の充実を図る考え。
6	総合案内を充実させることで、来庁者の目的がスムーズに達成し、市民満足度の向上につながる。	今後、具体化の検討を進めていく中で参考とする。
7	災害時の拠点施設の考え方について、バックアップ施設（輝きプラザきらら・南部生涯市民センター）の老朽化が進んでいくため、新庁舎整備に併せて本庁舎とバックアップ施設の関係を見直す必要がある。	新庁舎整備後の本庁舎とバックアップ施設の関係は、枚方市市有建築物保全計画などの関連計画も踏まえて、必要に応じて検討していく考え。
8	民間のオフィスレイアウトを採用するなど執務室はスリム化を図り、建設コストを抑えた庁舎としつつも、市民のために特徴的な機能を充実させるなどのメリハリが必要。	執務面積は必要最小限としつつ、現状不足している災害関連機能や会議室などは拡大する方向で独自調整する。一方で、市民サービスの向上を目的とした総合窓口や多目的スペースなどの機能を拡充するなど、メリハリを持たせつつ建設コストの抑制を図る考え。
9	庁舎内のサイン計画次第で来庁者の負担は削減できる。さらに、まちと庁舎が一体的につながるサイン計画が望ましい。	枚方市駅周辺再整備基本計画と連携して一体的なまちづくりに努める。

【6月14日 武委員】

No	主な意見	市の回答
1	ICTの活用により市民サービスの向上や職員の業務効率の向上を図る考えと併せて、社会福祉の観点から、ICTの利用に困難を抱える方に対する配慮も必要である。	あらかじめ、能力の違い、年齢、性別、国籍等に関わらず、多様な人々が利用しやすいように考えて、都市や生活環境をデザインすることというユニバーサルデザインの観点をハード整備だけでなく、窓口サービスや行政サービスの提供に取り入れていく考え。
2	南海トラフ地震などの大規模災害の発生が予見されていることを踏まえると、行政機能の集約化が良いのか、分散化が良いのか整理しておく必要がある。	枚方市駅周辺などに分散している庁舎機能を必要に応じて集約することで、効率的・効果的な行政運営を進めるとともに、あわせて災害対策の充実を図る考え。
3	基本方針の説明の中で「ユニバーサルデザイン」とあるが、誰を対象にしているのかをもう少し分かり易く表現する必要があるのではないか。	高齢者や障害者など利用者を対象していること明確にする。

【6月14日 武委員】

No	主な意見	市の回答
4	庁舎内に附帯機能を集約しすぎると、周辺のまちが衰退する恐れがある。全ての機能を庁舎に集約するのではなく、主要機能だけを集約した方が良いのではないか。	附帯機能として現時点で想定している銀行ATMやコンビニエンスストアなどについては、過大とならないよう、庁舎規模のコンパクト化やコスト負担の抑制を念頭に置きながら、民間のノウハウを活用して整備する考え。

【6月15日 石川委員】

No	主な意見	市の回答
1	社会背景の整理の中で、庁舎を含む枚方市駅周辺（中心市街地）とその他市域とで地域格差が生まれること、それを踏まえて、本庁舎と支所などの行政連携などについて触れておくべき。	支所業務については、枚方市駅周辺再整備や新庁舎整備の検討内容を踏まえて、今後検討していく考え。
2	社会経済環境の変化が大きい中で、将来、市民サービスに対する変化が予測されるが、どのような動きになるのかは不透明であるが、行政と市民の関係以外にも、行政と企業、企業と市民などの交流や活動も多様化していくので、固定化しないスペースを設けることが望ましい。	災害時の活用も見据え平常時はイベントなど市民交流が図れるよう、様々な用途に柔軟に活用できる多目的スペースを1階に設ける考え。
3	まちの回遊性の向上と併せて、市駅周辺全体のまちづくりと連携し、楽しく歩ける（苦にならない）空間を整備していくことが、健康の視点からも重要になる。	枚方市駅周辺再整備基本計画と連携して一体的なまちづくりに努める。
4	基本方針や機能に掲げた内容について、ハードとソフトどちらで解決するのか整理しておいた方がよい。	枚方市新庁舎整備基本構想の中で掲げる基本方針や機能については、ソフト面での対応していく内容を追記する。今後、具体化の検討を進めていく中でハードだけでなくソフトの充実や、ハード・ソフトを連携させてより良い庁舎整備につなげていく考え。
5	アンケートのクロス集計について、10歳代～30歳代、40歳代～50歳代、60歳代～80歳以上の3区分の傾向も掴むことが出来るのではないか。	アンケートのクロス集計について、3区分の傾向を掴むため追加分析する。

【6月25日 狩野委員】

No	主な意見	市の回答
1	今後、現庁舎跡地が駅周辺の活性化につながる観点からも、庁舎は今よりも遠い方が良い。その際には、現在よりも駐車場台数の増加が必要。ただし、高層マンションに囲まれるようなまちづくり計画では駄目。まちづくり計画には、①街区から⑤街区全体のランドスケープとして広域的な視点で考えていく必要がある。	新庁舎整備位置については、国・府と連携協力して⑤街区を基本に検討をするとしているが、現在、枚方市駅周辺再整備基本計画を策定していく中で、全体のまちづくりを踏まえながら、幅広い視野をもって比較検討していく。
2	市民ニーズは、ますます多様化・複雑化が進展する中で、市民一人ひとりの満足度が求められ、人口が減少しても行政の業務量は減少するとは限らない。行政の対応も専門化していくことが必要となるため、任用も複雑になり職員数は増えるとも考えられる。そのため職員の労働環境を改善するため、一人当たりの執務環境は余裕をもって設けるべき。	想定職員数の考え方の要因に、多様化・複雑化する市民ニーズへの対応を挿入するとともに、職員一人当たりの適切な執務面積を検討する考え。
3	市民が広く利用し、庁舎の顔となるエントランスやロビー、トイレの充実が必須であり、その分の面積は見込むこと。例えば、エントランスやロビーは明るく、開放的な空間とし、入口から入ると特有の印象により一瞬の感動を与えられることが重要。近代的またはレトロ（スタンドグラスの使用など）な印象を与えるものが良い。また庁舎の価値を高め、職員にとっても業務意欲が向上させるためにもトイレは超近代的なものとするべき。	トイレや待合いなど、市民が多く利用される機能を充実させる面積を確保していく考え。また、来庁者に好印象を与えられるよう、今後、具体化の検討を進めていく中で参考とする。

No	主な意見	市の回答
4	<p>まちの発展のために機能を分散させる考えは重要である。そのため部署をある程度まとめて、効率的な体制とするべきであるが、全ての部署をまとめる必要はない。</p> <p>行政手続きを一箇所の窓口で完結させるのは理想ではあるが実現は困難である。行政部署はそれぞれが独立した部署であり、市民が利用目的に応じて行動（移動）するものである。そのため、ワンストップの実現を図ることよりも市民の待合い時間を短縮化するための行政執務間のスムーズな連携体制を構築することが現実的である。</p>	<p>新庁舎では、市民ニーズが多様化・複雑化していく中で、これまで以上に組織（部署）を横断した取り組みが必要となるため、意思疎通を速やかに図れるよう、分散している庁舎機能をできる限り集約する。しかし、業務の中には、取り組み内容の独立性が高く、現在の配置においても特段の支障をきたさない部署や市民の利用促進の観点から、集約化が好ましくない部署については、庁舎機能の集約の対象から外す考え。</p> <p>また、窓口サービスの向上を図るため、総合窓口などの検討を進めていく中で参考とする。あわせて、市民の待合い時間を短縮化するための行政執務間のスムーズな連携体制の構築を継続的に努めていく。</p>
5	<p>図書館は市駅周辺にあっても良いが、庁舎の近隣に、史料館や図書館が整備されることにより市のグレードが高まる。また、飲食は、史料館などで提供してもよい。議会図書室というよりも、市民利用を見据えたことに配慮することが必要。</p>	<p>枚方市駅周辺再整備基本計画と連携して図書館機能の充実に向けて検討する。また、議会図書室については、市民利用の促進を図れるよう検討する。</p>
6	<p>庁舎周辺の環境整備として、中低木の植栽やベンチを配置してが憩いの場を創出するべき。また、安全で快適に歩けるまちというのは魅力が高まるので、「歩きたくなる歩行空間」の整備が必要。そのためには、車道と歩道は完全分離が必要。</p>	<p>庁舎周辺の環境整備や歩行空間については、枚方市駅周辺再整備基本計画と連携して検討する。</p>
7	<p>庁舎における案内表示や掲示板の方針を検討し、市民にわかりやすくするべき。</p>	<p>利用目的に応じた担当部署や行政からの案内などをホームページを通じて情報提供するなど市民にわかりやすい案内に努めるとともに、誰にでもわかりやすいサイン計画の作成や情報案内板の提供に向けて検討する。</p>
8	<p>利用者の多い福祉関連部署の待合いスペースを充実させるとともに、待機時間を有効活用できる工夫が必要。例えば、ポケベルでの呼び出しサービスなど。</p>	<p>申請窓口や相談窓口の多い部署の待合いスペースの充実とあわせ、待ち時間の短縮につながる取り組みを検討する。</p>
9	<p>庁舎には災害対策本部機能として重要な役割ではあるが、今回の震災を踏まえると、災害対策本部と避難所との意思疎通体制や本部の状況判断などが現場では大きく影響することがわかった。災害対策には災害対策本部室や設備の拡充以上に、被災時の迅速な初動体制と長期的な災害復旧にも対応できる人員体制を充実すべき。</p>	<p>災害対策機能として必要な機能や活動スペースを確保する考え。また、迅速な初動体制や長期的な災害復旧にも対応できるソフト面での充実に向けて努める。</p>
10	<p>基本方針1にある「安全・安心」を庁舎が支えるという表現は、他の基本方針と比べるとわかりにくい。支えるのは、安心で安全な市民の暮らしを支えるという表現であれば伝わるのではないか。</p>	<p>基本方針1を安心・安全な暮らしを支える庁舎に変更する。</p>
11	<p>基本方針5にある「経済性」とは市全体にかかるものであり、庁舎単体で実現するものではない。行政事務が効率的で機能的に対応できることが重要。また、効率的・経済性を基本方針に掲げる場合、防災システムや環境の整備には一定の費用がかかるため、新庁舎の経済性とは相反する考えになるので整理が必要。</p>	<p>基本方針5を効率的で機能的に優れた庁舎に変更する。</p>
12	<p>自助グループが活動に使用する会議室は、ラポールやメセナを活用し、新庁舎内に設置する必要はない。</p>	<p>新庁舎の会議室は行政の執務機能として設ける考え。</p>
13	<p>情報通信技術の高度化については、枚方市が今後、どのようにICTを活用していこうとしているのかを説明することが重要。ただし、ICTの進展に併せて、セキュリティやシステム変更の対応、維持管理に係る費用等は増大することを留意しておく必要がある。</p>	<p>本市では、市民等の利便性の向上や情報の公開と共有を目標に定めた、「第2次枚方市情報化計画」を平成28年に策定し、市民等が行政サービスの電子化によるメリットを実感できるよう、必要となるシステムの整備や、情報発信手段の拡充などによる情報発信を進めていることから、記載内容の見直しを行う。</p>
14	<p>市駅周辺再整備の一環として、建設される総合文化センター、関西医大、新消防庁舎、ラポールやメセナなど、市駅北側への人の往来が増加するなか、枚方市にとって非常に重要な歴史的背景がある枚方宿の街道は、石畳と風情ある灯りを整備することで回遊性を高めていくべき。（特に新町地区において）</p>	<p>本市としては、この地域に存する枚方宿などの歴史的・文化的な街並みは、重要な地域資源の一つとして認識をしており、市駅周辺の魅力を高めていくため、ご意見については、関係部署間で情報共有を図り、今後の取り組みに役立てる考えです。</p>